

腹部検査

超音波検査	皮膚の上から超音波により腹部の臓器（肝臓・胆嚢・膵臓・脾臓・腎臓）を調べます。胆嚢結石、胆嚢ポリープ、脂肪肝などを検出します。肝嚢胞、腎嚢胞、胆嚢ポリープ、肝血管腫、胆嚢腺筋腫症などは良性ですが、経過観察が必要です。また、確定診断のために、再検査や CT 検査などの精密検査を行う場合もあります。 ※なお、検査の性質上、体系や体内の状況により一部見えづらいことがあります
腹部 CT	CT を用いて肝臓、胆嚢、膵臓、脾臓、腎臓、膀胱、男性は前立腺、女性は子宮や卵巣を観察します。場合によっては造影剤を用いた造影 CT 検査などの精密検査を行うこともあります。
胃部 X 線検査	造影剤のバリウムを服用し、X 線を用いて付着したバリウムの貯留状態や通過状態などにより食道・胃・十二指腸の粘膜に潰瘍、ポリープ、腫瘍がないかを調べます。潰瘍、ポリープ、腫瘍が見つかった場合は、確定診断のため内視鏡検査をお勧めします。
胃内視鏡検査	胃カメラを口から挿入し、食道・胃・十二指腸の粘膜を直接観察し潰瘍、ポリープ、腫瘍などの状態を調べます。潰瘍、ポリープ、腫瘍が見つかった場合は、確定診断のためポリープや腫瘍の組織を採取し病理検査をお勧めします
大腸 SF 検査	肛門から S 状結腸までにカメラを挿入し、大腸の粘膜を観察して大腸ポリープや腫瘍の状態を調べます。